

# アラジン通信



第36号

2016. 4. 25

NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン

## CONTENTS

- ・介護で仕事を辞めなくていい社会づくりをめざして P1
- ・新・ゆうゆう阿佐谷館特集 P2~P3
- ・インフォメーション P4

## 「介護で仕事を辞めなくていい社会づくりをめざして」

～「介護離職をなくす社会をめざす会」が3月に発足～

“家族の介護で仕事を辞める人が年間10万人以上”という実態を背景に、“介護による離職問題”が社会問題としてさまざまに取り上げられています。昨年秋、政府が基本政策の“3本目の矢”として「介護離職ゼロ」対策を重点に掲げたのは記憶に新しい出来事だと思います。それを受け、2015年の補正予算には「介護基盤の整備」や「サ高住の整備」「介護人材の育成・確保」が盛り込まれました。

こうした動きに拍車をかけるべく、3月23日（水）「介護離職をなくす社会をめざす会」が東京にて発足しました。この会は、おもに連合などの労働組合や介護事業所の全国組織、また高齢社会問題に取り組むNPOや企業等（14団体）が集結し、この問題の真の解決をめざす「政策提言」をしながら運動を展開していこうというものです。もちろん、我々介護者支援団体も介護者（当事者）支援の立場で、友好団体（アラジン・日本ケアラー連盟・男性介護者ネット・全国介護者支援団体連合会）を含め名を連ねました。この日の発足記念フォーラムには、おもに関係団体から200名もの参加者が終結し当事者・企業・介護事業者などの事例報告をしつつ産声をあげました。

この運動では、“家族の離職防止”政策とともに、“介護職員の離職を防ぐ”取り組みについても言及していきます。目下の企画としましては、5月末に全政党をお呼びし、政策討論会を実施する予定です。

介護者が介護のために離職したことにより、経済的・社会心理的に、あるいは介護者の人生そのものに深刻な影響を及ぼす状況について、私たちは長年現場で生の声をうかがってきました。その問題は、中高年という働き盛りの層ばかりではなく、若年層（20代～40代）に広がってきているというのを6～7年前から実感しています。しかし、その実情はまだまだ社会の表面に出ているとは言いがたく、またひとくちに企業の休業制度が柔軟になっただけでは、介護離職を回避することは難しい複雑な問題を孕む現実が立ちまわっています。ただ、今回この問題について真正面から取り組み、議論を投げかける大きな舞台ができたことは（まだまだ社会に対して小さな力しか持ちえない）私たちにとって、朗報だととらえています。

今回の運動を通じ、通常交わることのないさまざまな組織体が社会問題を介して議論を重ねていくこととなります。組織の文化や歴史の違いを乗り越え、生活者としての声を代弁し、国の政策を揺さぶることのできる原動力のひとつとなれることに大きな重責と使命感を感じているこの頃です。

みなさまからもこの問題について、政策に盛り込んでほしいアイデア、生の声等をぜひお寄せください。今後ともどうぞ見守ってくださいますように。

（個人の賛助会員も募集をしています。くわしくはHPにて掲載します）

（理事長 牧野史子）

# 新・ゆうゆう阿佐谷館は 新規オープンから1周年を迎えました

昨年4月に、新たにオープンした「新・ゆうゆう阿佐谷館」は、この4月で1周年を迎えました。

杉並区の施設再編計画の一環として、旧阿佐谷区民事務所跡に移転、多世代が身近な地域で利用できる地域コミュニティ施設への移行のモデル館としてのスタートでした。

今回は、館長をはじめスタッフの皆さんからのメッセージをお伝えしたいと思います。



## 館長からのメッセージ

昨年4月、JR阿佐ヶ谷駅のすぐ近くに、ゆうゆう阿佐谷館がオープンしました。ゆうゆう館は、区内在住60才以上の方々に【憩い・いきがい学び・ふれあい交流・健康づくり】を目的にした施設です。

また当館は、平成26年3月に策定した杉並区立施設再編成整備計画第一次プランに於いて、今後多世代が利用できる地域コミュニティ施設への転用、再編整備を担っています。ゆうゆう館事業の運営を継続しながら、地域コミュニティ施設のさざんかねっとにも携わり、杉並区のモデル的取り組みを実施しています。

その取り組みの一つとして昨年9月には、敬老会イベントを実施しました。(写真)



当館にて登録されている高齢者団体の方々に普段の活動を展示、披露していただきました。

展示では、フラワーアレンジメント、写真、水墨画、書道、水彩スケッチなど。発表は、フラダンス、ハーモニカ・大正琴・ウクレレ演奏、社交ダンス、気功、手話教室、栄養相談。盆踊りは、来場者も含め阿佐谷館全部を使って【輪踊り】を踊り、楽しいひと時を過ごしました。当日の来場者数は、300人と大盛況でした。

その他、11月に町会、子供たちを交えた地域交流会を催しました。

今年は、運営2年目となりますが、今後も地域に密着したゆうゆう館を目指していきたいと思っています。

(館長 吉野明子)

## スタッフからのメッセージ

副館長 大角勝美：受付で会う利用者は未来の私。理想の人を日々探しています。

副館長 安藤 隆：高齢者の方たちと、コミュニケーションすることで、逆に元気を頂けることになるとは、正直びっくり！！  
熟年パワー(老人力?)とは凄いものです！！

## スタッフからのメッセージ

増子 清：利用者さんが雨風に負けず一所懸命に勉強する姿を観て尊敬しています。見倣おうと思いつくも出来ない私です。

楠元令子：人との出会いで、新たな発見が・・・まだまだ、勉強中です。

安部水絵：4月からお仲間に入れて頂きました。フレッシュとして、新風を巻き込みます！?

白石麻里：「人生毎日大爆笑!」「他力本願」・・・座右の銘です♪

宮山豊雄：『誠心誠意』をモットー

豊田弘之：利用者の方々が安心してお使いできるよう努めていきます。

白石裕美：利用者が快適な時間を過ごせるよう出来る限りのことをしたい。

里子真一：いろいろと至らない私であります。今年度もよろしく願ひいたします。

辰己智久：利用者みなさんが楽しく笑顔で過ごして頂けるようこれからも頑張っていきます。

吉藤友美：利用者みなさまが気持ちよく過ごしていただけるよう、これからも努力していきたいと思ひます。

大友道子：4月からスタッフの仲間入りをしました。笑顔でがんばります。

夫(ふ) 明柱：皆様の笑顔こそ私の糧であります。



湯澤風仁：2016年4月からゆうゆう阿佐谷館にて受付業務をさせていただきます。高校生の自分は高齢者に関わるということは日常生活の中ではあまりないので、この貴重な経験を活かしいろいろなことを吸収し学びたいと思ひます!

上原 進：和顔愛語 笑顔を絶やさず常に優しい言葉すかいが出来るように心がけます。

## ゆうゆう阿佐谷館の協働事業

ゆうゆう阿佐谷館の2016年度協働事業は、「地域の多世代のつながりづくりの拠点となり、様々な地域資源と連携して暮らしやすい地域を創出する」の理念の下で実施します。2016年4月時点での事業数は12、事業分野別の割合は図に示す通りで、バランスはとれていると考えます。

4月からは、「みんなで作って、みんなで食べる『おたがいさま食堂@ゆうゆう阿佐谷館』」、という食事の楽しさを再発見する「ふれあい交流」の事業が正式にスタートしました。理念に沿った代表的な事業として、多くの方々が集まるように運営していきます。

ここで理念を具体的に考えてみると、「多世代のつながり」とは、「時間と情報の共有」「異なる価値観の尊重と交流」「暮らしの知恵の伝承」などです。東京・杉並・阿佐谷と考えたとき、「様々な地域資源」の中では人的資源が最も豊かな地域です。まだまだ地域に貢献できるスキルの持ち主の埋もれた資源を発掘し、事業への参加を図っていくことが「地域資源と連携」になります。「暮らしやすい地域」とは区の行政サービスにプラスして、質の高い「健康」「学び」「交流」の場が得られる地域のことです。

ゆうゆう阿佐谷館の協働事業の運営では、常に理念の具体的なイメージを描きながら新しい事業を創出していきます。

ゆうゆう阿佐谷館協働事業分野



(協働事業担当 川橋文隆)

アラジン第12回通常総会のご案内

と き : 2016年5月28日(土)  
13:00~16:30  
と ころ : 新宿御苑前「東京在宅サービス」会議室  
\*今年は2部構成  
総 会 13:00~14:20  
会員のつどい 14:30~16:30  
テーマ:介護の未来  
~こうしたい、こうして欲しい、こうなっ  
て欲しい、皆んなでワイワイ語り合いま  
しょう~

介護者フォーラム2016開催!

(仮題)「介護も仕事も〇〇も・・・  
そして私らしい人生を!」  
と き : 2016年7月17日(日)  
13:00~16:30  
と ころ : 水道橋「全水道会館」  
定 員 : 150名  
参加費 : 1500円(会員1300円)  
\*詳細は、追ってご案内します。

☆事務局だより  
事務局会議の改変 ~会議を学びあう場に~

毎週火曜日、新宿の事務所で2時間ほど、事務局スタッフと数名の理事とで、事務局会議を開いています。そこでは、スタッフの皆さんが各地で取り組んでいる事業の報告をしたり、介護の領域などに関する動向を共有したりしてきました。事務局の一員として、活動状況を把握し、活動方針を都度、明確化するためには、大切な場です。

ただ、従来の会議運営については、時間が長過ぎるなどの課題がありましたので、そうした課題を解消し、さらに価値のある場にしようと、2月から会議のあり方の改変に着手してきました。その結果、3月からは事業報告をコンパクトにし、月1回はそうやって浮いた時間を使って「実践の探究」に取り組んでいます。

実践の探究とは、事務局会議の出席者が、互いの実践をよくしていこうという思いのもとで、スタッフ一人の実践を共同で探っていく営みです。具体的には、まず、一人のスタッフが自らの実践について報告します。次に、他の出席者が報告者と質疑応答したり、出席者同士で意見交換したりしながら、報告された実践についての理解を深め、そうしながら自らの実践についてもふり返るといったものです。その過程で、独りでふり返るだけでは得難い、つまり、共同での探究だからこそその気づきや、実践に対する理解の深化が促されると見込んでいます。

これまで二人の方に実践を報告していただきましたが、それぞれの語りから「中間支援組織とは」「ボランティアの自主化支援とは」といった、アラジンの事業の核心を突く問いが示されました。「実践の探究」ではそうした問いの解決を目的とはしていません。しかし、そのような問いに皆で向きあい、それらについて語りあうことは、出席者一人ひとりや、事務局という組織としての実践力の醸成を誘発すると考えています。

このようにして事務局会議は事業報告や情報共有というこれまでの役割に加え、学びあう場を培うという働きを担い始めました。  
(理事 大竹幸浩)

ご寄付有難うございました  
(2016.2~2016.4)  
青木 清 様 東 一邦 様

2016年度会費納入  
のお願い  
振込用紙をご利用ください。

編集後記: 今年春の訪れが早く長い時間桜を楽しめましたね。みなさまの地域ではいかがだったでしょうか?

桜が散ると時を同じくするように、九州熊本地域で大きな地震がおきました。東北の地震から5年が過ぎたね・・・とちょっと一息ついた時でした。会員のみなさまには被害にあわれた方はいらっしゃらなかったでしょうか。多くの方が被災され尊い命が失われてしまいました。困難な状況にあられる全ての方にお見舞い申し上げます。一日も早い復興と心の平安がおとずれることを心よりお祈り申し上げます。  
(M. O)

発行:NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン 発行者:牧野史子  
事務所:〒160-0022 新宿区新宿 1-25 -3 エクセルコート新宿 302 号  
TEL 03-5368-1955 FAX 03-5368-1956  
E-mail arajin2001@arajin-care.net URL http://arajin-care.net/